

和牛繁殖農家に対する生産基盤 強化に向けた取組み

京都府丹後家畜保健衛生所

○岡田幸大 岩本尚史

【はじめに】丹後地域では当所が従来から和牛繁殖農家を対象とした月1回の巡回指導（以下巡回）を実施してきた。今回、生産性向上と生産基盤強化を目的として、より細かい繁殖や飼養管理指導をするため巡回や診療等の実施方法について見直す取組みを行った。【取組みの概要】（1）必要に応じて月2回の巡回を行い、繁殖検診と治療を実施した。人工授精所と連携して得た、授精等の情報及び当所の治療歴をパソコンで一元管理し、職員間で共有化を図り活用した。（2）多くの農場で双口吸虫の寄生していた長期不受胎牛に対し、積極的な駆虫指導に取り組んだ。（3）子牛のコクシジウム症が多発する農場に予防薬（トリトラズリル）の使用を指導した。（4）去勢は子牛へのストレス低減の為、バルザック法から観血去勢法に切り替えた。【結果】空胎日数はH18:119日からH21:102日に短縮した。コクシジウム病診療件数は指導実施前3.2件/月から実施後0.8件/月に減少した。せり市出荷子牛の日齢体重が0.7kgを下回った頭数の割合はH18:2.20%からH21:0.52%に低下した。【まとめ】繁殖情報の一元管理により巡回対象牛の的確な個体情報の把握が容易になり、農家での検診と治療に要する時間を短縮した。これにより農家の様々な問題点についての聴取と、きめ細やかな飼養管理指導に要する時間を十分持つ事が可能となった。